

起業支援プログラムをサポートする関西学院大学図書館での事業案
— ビジネス・ライブラリアン講習会受講から着想したものを基にして —

川崎 雅史
関西学院大学図書館

1. はじめに

これまで大学図書館は、学生の学習や大学の高等教育・学術研究活動を支える重要な学術情報基盤として、学術情報の収集、蓄積、提供を通じて教育研究を支援してきた。しかし、急速なデジタル化や 18 歳人口の減少などの社会環境の変化に伴い、大学図書館は、大学における学習、教育、研究活動の変化や新しい動向に対応し、より効率的な支援を展開するとともに、特に学生を中心とする利用者の情報リテラシー能力向上、研究者の必要な情報へのアクセシビリティ向上に対して積極的に関与していくことが求められている¹⁾。

私が本ビジネス・ライブラリアン講習会（以下、BL 講習会）に参加した動機も、関西学院大学（以下、本学）が取り組む教育活動に対して、本学図書館がより積極的に支援を行う必要を感じたためである。

本レポートでは、BL 講習会で得たものを基にして、本学が取り組む学生・卒業生への起業支援活動に対して、本学図書館が積極的に関与するサポート事業実施について考察したい。

2. 背景

2.1 国の施策

日本経済は近年伸び悩み、国際競争力の向上にはイノベーション創出を目指す起業家輩出が急務となっている。2022 年には岸田内閣によって、ユニコーン企業を 100 社、スタートアップ企業を 10 万社創出することを目標にした「スタートアップ育成 5 か年計画」も策定された。

起業家輩出には起業家教育が重要だと、文部科学省は起業家人材育成を目指す「グローバルアントレプレナー育成促進事業（EDGE プログラム，2014 ～2016 年度）」実施、続いて「次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT プログラム，2017 ～2021 年度）」を展開し、各大学でのアントレプレナー教育の成果や課題を踏まえて、大学等の研究開発成果を基にした起業や新事業創出に挑戦する人材の育成、関係者・関係機関によるベンチャー・エコシステムの構築が目的とされた²⁾。その後、自治体・産業界が大学や研究機関と連携し、その優れた研究成果を基にした大学発スタートアップ創出を目的とした「スタートアップ・エコシステム形成支援（2021 ～2025 年度）」が現在展開されている³⁾。ここからも、我が国の起業・創業において、大学での起業家教育がいかに重要視されているが分かる。

2.2 本学での起業支援の取り組み

本学では、創立 150 周年(2039 年)を見据えた超長期ビジョンと長期戦略からなる将来構想「Kwansei Grand Challenge 2039」を策定し、この将来構想実現を目標に「中期総合経営計画」を立てている⁴⁾。中期総合経営計画では、創立 150 周年(2039 年)までに 100 人の本学出身上場起業家を輩出することを目指す「IPO アントレプレナー100 人創出プロジェクト(以下 起業プロジェクト)」を設定し、展開している⁵⁾。

この起業プロジェクトは、学生の起業家精神を育むだけでなく、実際に事業を立ち上げる経験を通じての実践的なスキル習得が特色である。また、プログラムを通して、本学 OB メンターによる起業アイデア創出、事業計画作成、ピッチ等についての実践的なトレーニング、より実戦的な起業へ向けたアイデアの壁打ち、事業の進捗などについて相談できる個別相談できるフォロープログラムも用意されている。

< 本学起業プロジェクト >

入門フェーズ

「ベンチャービジネス創成」や本学出身起業家による講義など正課授業を通じて、アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。本学先輩 IPO 社長から実際に起業する際の体験談や想いを直接聞き、それをロールモデルとして起業プラン作成に取り組む。

実践フェーズ

民間企業と連携して開講される「Kwansei Gakuin STARTUP ACADEMY」を受講し、複数回の起業を体験。受講生は事業計画を作成し、事業を実際に立ち上げ、お金を稼ぐ経験を積むため、設定された売り上げ目標を目指して事業経営を行う。結果、知識だけではない経験に基づいた事業計画を立てることができるようになり、即起業ができる状態を目指す。実際の起業プランができれば「Kwansei Gakuin PITCH CONTEST」などのビジネスプランコンテストに参加し、本学出身企業家などから評価を受けることができる。

基幹施設

2025 年春に、本学で初となるインキュベーション施設「S-ベース」(以下、「S-ベース」)が、理系学部のある神戸三田キャンパス近隣にオープンする。自治体(兵庫県・三田市)、企業、学生、地域住民等が集い、交流・協働する中で地域課題解決の実践を行い、起業ネットワークを築く拠点となる予定である。

3. 本学図書館の課題

本学の起業プロジェクトはソフト面では体系的できめ細やかな支援を展開し、ハード面でも支援拠点となるインキュベーション施設が完成し、充実したものとなっている。しかし、起業に関する図書・資料を持つ本学図書館が、現時点ではプロジェクト担当者および受講者に対して、図書・資料活用の有用性を伝えきれておらず、レファレンスサービスも十分に提供できていない。起業・創業準備段階では、あらゆる角度からの情報収集が重要であり、起業・創業

に関する情報提供は、情報基盤組織たる図書館の本来の役割であることを、本 BL 講習会受講により再認識した。

そこで、本学起業プロジェクトを側面から支援する事業を大学図書館が行うことにより、情報基盤組織としての図書館本来の役割を果たし、本学の目指す本学出身起業家創出に寄与できるようにしたい。

4. 本学図書館での事業案

4.1 事業概要・目的

本学起業プロジェクトは主管部局・研究推進社会連携機構が担当しており、学生・卒業生へ起業支援を専門スタッフが担当している。

起業プロジェクトをさらに充実させるためには、大学図書館でもつ情報資源の活用が不可欠である。そこで、本学起業プロジェクトおよび本学卒業起業家を支援するための「起業プロジェクトサポート事業」を本学研究推進社会連携機構および本学出身起業家と連携して実施する。

目的は、起業プロジェクトに対して、大学図書館のもつ情報資源や人的資源を活用した支援を行うことにより、本学出身起業家創出を促進することである。

4.2 事業内容

本 BL 講習会で得たものを基に、次のように設定した。

(1)プロジェクト担当者向け情報検索講習会実施

大学図書館の情報資源・人的資源の有用性を理解してもらうため、プロジェクト担当者に向けて情報検索講習会実施し、企業情報や業界情報、スタートアップ情報の収集に役立つ図書・データベースの利用方法など伝える講習会を実施する。例えば、BL 講習会で紹介された「市場情報評価ナビ: MieNa」は、プロジェクト受講生の事業計画作成時に有用であると考えられるため、プロジェクト担当者に導入を提案し、利用方法を伝える。

(2)出張レファレンスカウンター設置

BL 講習会で紹介された鳥取県立図書館の事例を参考に、「S-ベース」に出張レファレンスカウンター設置し、定期的に図書館スタッフが出向いて、プロジェクト受講者、卒業生、地域住民などの施設利用者に対してレファレンスサービスを提供する。

レファレンス実施にあたっては、BL 講習会で学んだレファレンスツールや情報源を活用しつつ、レファレンス記録を継続して残せる体制をつくり、カウンター担当者間の情報共有、質問の傾向分析などに役立てる。

(3)「S-ベース」への起業関連図書の機関貸出

BL 講習会で紹介された宇都宮東図書館の事例を参考に、本学図書館所蔵の起業関連図書の複本を購入し、施設利用者が自由に利用できるように施設に貸出を行う。また、施設利用者からの購入リクエストも受け付け、大学図書館蔵書選書時の参考とする。

(4)本学出身起業家の事業紹介展示およびトークイベント実施

起業・創業を身近に感じてもらい、本学起業プロジェクトへの興味喚起のために、本学出身起業家の事業・商品の展示企画を実施する。また、展示企画実施にあわせて、本学出身起業家が起業経験や事業に込める思いを語るトークイベントを実施する。

本学出身起業家の事業・商品紹介展示では、BL 講習会で紹介された泉大津図書館の地元企業紹介展示「ここリソース」、企業と連携した図書館課題解決と事業実証の場を兼ねた取り組みも参考に、本学出身起業家の事業内容を身近に感じるようビジュアル展示や体験型展示を模索する。

(5)ビジネスコンテスト「Kwansei Gakuin PITCH CONTEST」受賞プランの展示実施

本学起業プロジェクトの成果広報を目的として、「Kwansei Gakuin PITCH CONTEST」の受賞プランの紹介する展示企画を実施する。

展示にあたっては、BL 講習会で紹介された「高校生ビジネス・グランプリ」の展示事例を参考に、アイデアや上手なプレゼンに関する資料が本学図書館にあることも示し、図書館利用促進を図る。

4.3 期待できる効果

(1)起業プロジェクト担当者および受講者に対して事業を展開することにより、本学図書館の有用性理解が進み、大学図書館のプレゼンスを高めることができる。結果、図書・資料およびサービス利用向上につながる。

(2)本学出身起業家の事業紹介展示およびトークイベント実施、ビジネスコンテスト受賞プランの展示などを通じて、起業プロジェクトや起業・創業への興味を喚起する。

なお、正確な効果測定は、BL 講習会講義にあったアンケート調査法に則って、事業評価を行い、PDCA サイクルを回すこと意識したい。

4.4 事業実施に向けてのアクションプラン

(1)主管部局・研究推進社会連携機構との連携強化

大学図書館と起業プロジェクト主管部局である研究推進社会連携機構との連携の強化を図る必要がある。

まずは現場ニーズを詳細に把握するため、大学図書館担当者が起業プロジェクト担当者に対して、どういった情報がどのタイミングでどのような形で必要かについてヒアリングを行う。ヒアリング結果を精査し、大学図書館が提供できる有用だと思われる資料やデータベース情報の提案を行う。

また、着実な連携実績をつくるため、研究推進社会連携機構と調整し、起業イベントや「S-ベース」でのワークショップなどの実施サポートを行う。その際、BL 講習会で紹介された鳥取

県立図書館「出前図書館」の事例を参考に「出前大学図書館」も傍らで実施できるように調整する。大学図書館起業関連資料の会場展示、起業情報の調べ方案内資料配布、起業に役立つデータベース情報のパネル展示などを行うことで大学図書館の有用性をアピールする場としたい。

(2)大学図書館職員のスキルアップ

事業実施にあたっては、まずは事業を担当する大学図書館職員の起業・創業支援の知識・技能に関するレファレンススキルアップが重要である。自館だけでスキルアップを図ることは困難であるため、ビジネス支援図書館推進協議会主催「BL講習会参加受講生の所属図書館への訪問事業」や国立国会図書館主催「講師派遣型研修」などを積極的に活用し、実践的な知識・技能習得を図る。

5. 今後に向けて

本学図書館での事業実施にあたっては、今回のBL講習会での知見から見えた課題がある。

ビジネス・レファレンスに必要な図書・資料の不足、起業・創業支援の知識・技能を備えたレファレンス要員の不足である。図書・資料については順次、購入を行い、それでも不足するものは今回のBL講習会で得たネットワークを活用して、相互利用制度や他館へのレファレンス協力依頼で対応する。レファレンス要員確保は急務ではあるが、まず自身がすぐに取り組めることは、本BL講習会での学んだビジネス・レファレンスに必要な資料、情報源、先進事例などを他の本学図書館員に伝えていくことである。その中から、できるところから実践し、本学起業支援を通じた、地域振興や課題解決型の図書館となれるよう努力したい。

謝辞

本BL講習会で情熱をもって、図書館ビジネス支援が日本の地域経済支援につながるという重要な図書館機能についてご教示いただきました各講義の講師の方々、ワークショップで温かく見守りながらご支援くださったアドバイザーの豊山様、高坂様、そして、ワークショップにて一緒に課題に向き合った4班のメンバーにも感謝申し上げたい。

注・引用文献

1. 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会.“大学図書館の整備について(審議のまとめ)－変革する大学にあって求められる大学図書館像－”文部科学省. 2022-12

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1301607.htm

(参照:2025-03-03)

2. 文部科学省.“アントレプレナーシップ教育の現状について”文部科学省. 2021_10
https://www.mext.go.jp/content/20210728-mxt_sanchi01-000017123_1.pdf (参照 : 2025-03-01)
3. 科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課.“スタートアップ・エコシステム形成支援の概要について”科学技術振興機構. 2020_07
https://www.jst.go.jp/start/file/call/2021_siryu_su-ecosys_mext.pdf (参照 : 2025-03-01)
4. 関西学院大学.“Kwansei Grand Challenge 2039 & 中期総合経営計画”学校法人関西学院. 2018_03
<https://kgc2039.jp/>(参照 : 2025-03-01)
5. 研究推進社会連携機構社会連携・インキュベーション推進センター.“IPOアントレプレナー100人創出プロジェクト”関西学院大学. 2016_09
<https://www.kwansei.ac.jp/shakairenkei/entrepreneur> (参照 : 2025-03-01)

参考文献

- 1) 竹内利明, 講義資料“公共図書館のビジネスサービスの基本”第24回ビジネス・ライブラリアン講習会, 2024
 - 2) 小林隆志, 講義資料“戦略的ビジネス支援サービスの展開”第24回ビジネス・ライブラリアン講習会, 2024
 - 3) 齋藤誠一, 講義資料“ビジネス・レファレンス・サービスへの取り組み(総論)”第24回ビジネス・ライブラリアン講習会, 2024
 - 4) 石川浩一, 講義資料“図書館員のためのマーケティング&アンケート調査入門”第24回ビジネス・ライブラリアン講習会, 2024
 - 5) 伊藤正啓, 講義資料“ビジネスデータ検索のための情報源とその活用法”第24回ビジネス・ライブラリアン講習会, 2024
 - 6) 河瀬裕子, 講義資料“【実践事例】泉大津市立図書館のビジネス支援サービス”第24回ビジネス・ライブラリアン講習会, 2024
 - 7) 余野桃子, 講義資料“ビジネス・レファレンスの実務及びビジネス・レファレンス演習”第24回ビジネス・ライブラリアン講習会, 2025
 - 8) 常世田良, 講義資料“再考:図書館員の意識改革”第24回ビジネス・ライブラリアン講習会, 2025
-